

川内原子力発電所の視察結果について (委員からいただいたご質問について)

平成30年8月16日
九州電力株式会社

1. 非常用ディーゼル発電機のフィルタコンテナについて
2. 可搬型ディーゼル注入ポンプのフィルタコンテナについて
3. 降下火砕物への対応に関する訓練について

1. 非常用ディーゼル発電機のフィルタコンテナについて

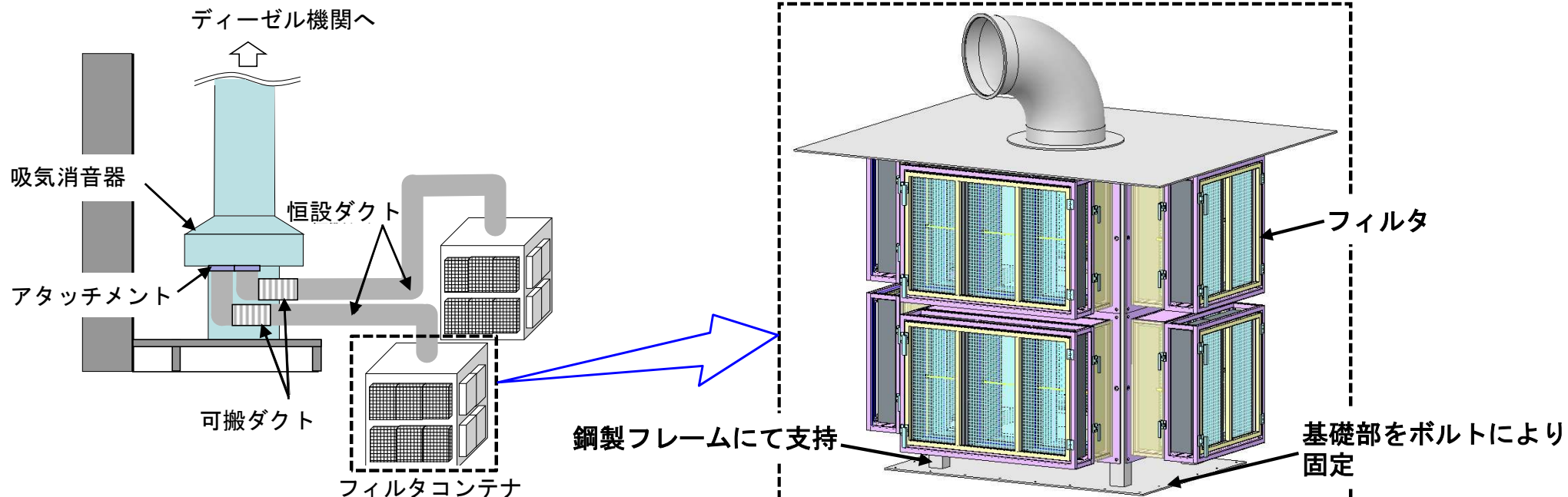
【ご質問】

非常用ディーゼル発電機の火山灰対策については、火山灰が到達するまでの間にフィルタユニットを接続するとの説明だったが、常設化や耐震性を備えた設備の整備を検討すべき。

1. 非常用ディーゼル発電機のフィルタコンテナについて

- 可搬、常設どちらの設計とした場合でも、降灰時に十分な機能を確保できると考えています。
- ただし、通常時から接続しておく場合は、非常用ディーゼル発電機の機能へ影響を及ぼすことのないよう、十分な検討が必要となります。
- 現時点の降下火砕物対応としては、噴火から発電所への火山灰到達までに時間的余裕があることから、降灰予報が発令された場合のみ接続する設計とし、現在、国の審査（保安規定）を受けているところです。
- 当社は、国の審査に適切に対応するとともに、様々な観点から継続して安全性が向上するよう検討してまいります。

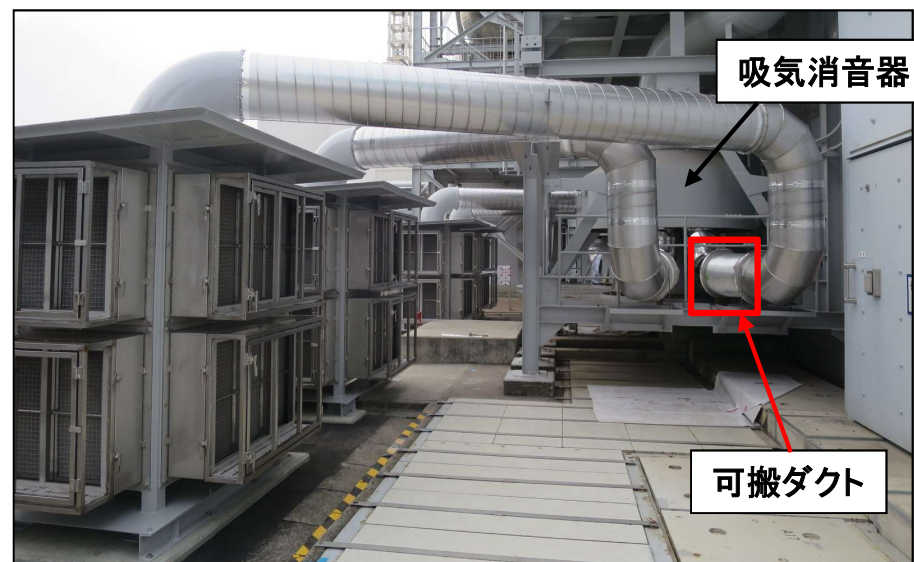
1. 非常用ディーゼル発電機のフィルタコンテナについて



【非常用ディーゼル発電機のフィルタコンテナ概略図】



【アタッチメントの接続】



【可搬ダクトの接続】

2. 可搬型ディーゼル注入ポンプのフィルタコンテナについて

【ご質問】

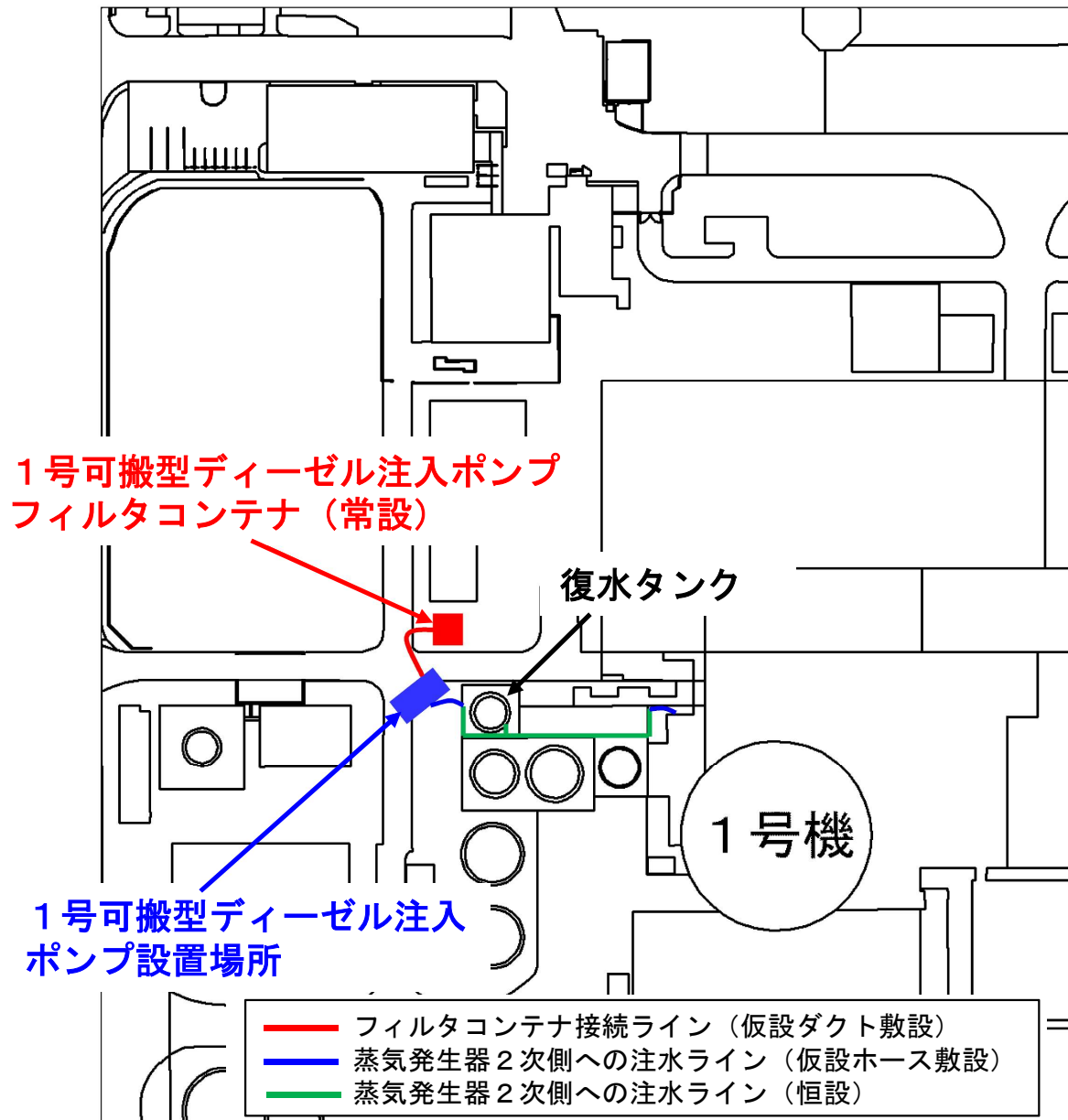
ディーゼル注入ポンプ（車両）は可搬型、フィルタコンテナは固定型であったが、フィルタコンテナに車両が到着しなければ機能しないため、フィルタコンテナも車両と一緒に移動できる態勢が望ましいのではないか。

2. 可搬型ディーゼル注入ポンプのフィルタコンテナについて

- 可搬型ディーゼル注入ポンプは、重大事故等時に原子炉へ冷却水を送水するため、原子炉冷却手段の多様化を図る観点から可搬設備として配備しています。
- 降灰時には、万が一、電源がない場合でも、常設の貯水タンクである復水タンクから蒸気発生器へ送水し、原子炉を冷却するために使用します。
- その際、ポンプは、蒸気発生器への注水口がある復水タンク周辺で使用することから、予め、フィルタコンテナを十分なスペースのある使用場所に設置し、作業の効率化を図ることとしています。

2. 可搬型ディーゼル注入ポンプのフィルタコンテナについて

【可搬型ディーゼル注入ポンプ及びフィルタコンテナ配置図】



可搬型ディーゼル注入
ポンプフィルタコンテナ



可搬型ディーゼル注入ポンプから
蒸気発生器2次側への注水（仮設ホース敷設）



3. 降下火砕物への対応に関する訓練について

【ご質問】

降下火砕物への対応については、火山事象と台風が一緒に発生した場合など、様々な状況を想定した訓練が大切である。

非常時には、その場にあるものを工夫して活用するなどの柔軟な発想も必要であり、そのような発想が生み出せる訓練も必要ではないか。

3. 降下火砕物への対応に関する訓練について

- 降下火砕物対策に係る訓練については、実際の降灰時を想定したマスク、ゴーグル等の着用や夜間を想定した検証を実施しているところです。
- 今後とも、降下火砕物対策に係る訓練を積み重ねていくことにより、習熟度や応用力の向上に努めていきます。



非常用ディーゼル発電機への
フィルタコンテナ接続



非常用ディーゼル発電機フィルタ
コンテナのフィルタ取替

当社は、今後とも、県民の皆様に安心していただけるよう、川内原子力発電所の安全・安定運転に万全を期すとともに、原子力発電所の更なる安全性・信頼性向上への取組みを自主的かつ継続的に進めてまいります。